

人生重ね富士登山

夏休みを利用して富士登山する人が多いが、富士山静岡の梅雨明けは7月19日、立秋は8月7日だが、この期間は天候が最も安定するのだから。

昔から言い伝えられた季節



「お山開き」のみそぎ＝富士宮市、全日写真小林久さん撮影

節や天候に関することわざは当たることが多いが、今夏の気象は列島規模でみると想像もできない現象が起きている。九州北部や秋田、新潟県には「観測史上最高」とか「50年に一度」の豪雨が襲ったりした。被災者のもとより、気象専門家も言葉を失っている。

県は、この「富士登山最適期間」中の7月21～23日に静岡県側の3登山口5合目で各日24時間計測した登山者数は計9492人と発表した。同じ金、土、日に当たる2016年7月22～24日に比べて、770人多かったという。

その中に、掛川市の全盲の男性(48)が12人の仲間をサポートされて登山に成功したというニュースがあった。投薬が原因で19歳で全盲になった人生で最も過酷な挑戦を果たしたという。様々な人生を背負いながら、今夏も約20万人が、一歩一歩、日本最高峰を目指す。

お山開き(静岡県側)の7月10日、富士山世界文化遺産の構成資産の一つ、村山浅間神社(富士宮市)では、恒例の神事「みそぎ」が行われた。その昔、修験者が身を清めて登山したという「水垢離場(みずごりば)」では、地元・富士根北中の生徒らも水に打たれていた。

いつの日か富士山頂を指す少年たちを、蟬時雨が包んでいた。

(前静岡県監査委員・富永久雄)